視察日時	令和6年7月16日（火）13時30分～15時30分
視察先	宮城県大崎市（説明：大崎市議会議員、大崎市議会事務局）
視察項目	議会運営及び議会改革の取り組みについて
視察概要	<p>（1）議会基本条例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例制定に至るまでの委員会の開催状況（期間・回数）は →検討組織は、「議会改革特別委員会（構成議員18人）」とし、平成23年6月～平成24年8月の間に、基本条例については17回協議。 市民との意見交換会（説明会）は、11会場で開催し、186人が参加。 平成24年9月定例会で可決され、議会基本条例が制定された。 会津若松市議会の議会基本条例を参考にしたとのこと。 ・条例の特徴と制定したことによる変化は →①「議会機能の強化」②「市民参加の機会拡充」③「市民への情報発信」を柱として、市民との関係性及び市民意見（市民参画）を起点とした政策形成を規定している。 議会・議員活動の目的や定義、目的達成度や指標など、全て議会基本条例に基づいて実施されている。 ・条例制定後の見直し状況は →「議会改革推進協議会」で、これまで令和3年と令和5年の2回実施。 <令和3年> 第22条に規定されている「条例の検証及び見直し」を、制定後8年目にして初めて実施。ABCDEの5段階で、各条文の達成度を評価。前文を含めて23項目のうち、A（目標達成）が7項目、B（概ね目標達成）が11項目、C（一部目標達成）が4項目。第17条の「議会図書室」のみ、E（未着手）と評価した。 <令和5年> 令和3年の評価では、各条文の目的達成に必要な具体的な取組まで協議していなかった。また、令和4年に、新人議員が7人も加わったので、議会における最高規範であり、条例の趣旨を理解するためにも、議員改選後の新体制において、再検証を実施した。 令和3年同様の「段階評価」に加えて「管理評価」も行った。管理評価は、市民の意見、社会情勢の変化等を勘案して条文改正が必要か否かを測るもので、4. 改正不要（条文を改正せず、現状の取組を継続する）、3. 改正不要（条文は改正しないが、現状の取組を見直す）、2. 一部改正必要（条文を改正し、あるべき姿に見直す）、1. 条文廃止必要（条文の規定は不要である）の4段階。 管理評価は、全ての条文が4または3で、改正不要とされた。一

方、段階評価は、第3条第1号【議員の活動原則〔自由討議〕】、第8条【市長による政策等の形成過程の説明〔議案審議の説明〕】、第9条【予算及び決算における政策説明資料等の作成】、第17条【議会図書室】の4項目が、C（一部目標達成）と評価された。

今後は、原則として、議員任期（4年）中に一度は、基本条例の検証を実施することが決定している。

- ・「第8条 市長による政策等の形成過程の説明」と「第9条 予算及び決算における政策説明資料等の作成」に関して、基本条例制定後、資料の変化は。また議員と当局の反応は

→第8条と第9条については、達成度が「C」評価である。

- ・議員間討議の運用のルールは定めているか、また実施状況は
- 事前審査にはならない範囲で、当局も入って協議することがある。

（2）議会報告会・意見交換会について

①市民意見等の整理（取りまとめ）の流れ

- ・スケジュール／4～5月 実施要項作成 → 7～8月 実施 → 9～11月 委員会調査等 → 12月 フィードバック（報告書公表）
- ・市民からの意見は全て所管部署に伝える。
- ・市民の声は議運に集約し、各常任委員会で正式な回答を検討したり、現地調査したりする。
- ・翌年度予算編成について、執行部も市民の声を反映させることができるスケジュール

②議会報告会

- ・令和5年度は、市内12会場で開催し、189人（1会場平均15.75人）が参加。平成29年度には、25会場で476人（1会場平均19.04人）が参加していたが、コロナ禍での落ち込みが回復できていない模様。
- ・令和6年度も、7月に市内12か所で開催予定。テーマは「物価高騰などを踏まえた生活課題について」「子育て・教育環境について」。
- ・参加者が固定化していること、初めての参加者が発言しにくいこと等の課題があり、幅広い年代層の参加者の確保、発言しやすい環境づくり、議会としての政策提言に繋げることが求められている。
- ・課題解決に向けた取組 ①高校生との意見交換会（H28, H30, R1）を実施 ②各常任委員会と各種団体の意見交換会（R1～）を実施 ③オンライン議会報告会（R6検討） ④政策提言等実施要綱の検証（R6検討）

③意見交換会

- ・ 常任委員会ごとに、各種団体との意見交換会を年2～3回実施。
- ・ 令和5年度は、支援学校PTAや観光協会など9団体と実施した。
- ・ 意見交換会の成果は、所管部署の職員も同席の場で共有する。

(3) ワールドカフェについて

- ・ 令和5年の議会改革推進協議会での最優先検討項目として、「市民との対話の場の創出」が挙がっていた。
- ・ 話しやすい環境（雰囲気）づくりや、市民との対等な関係性を目指して「ワールドカフェ」方式での開催を決定。テーマは「子育てしやすいまち」。
- ・ 事前に議員に対しても研修を実施。当日は議員もカジュアルな服装で参加して、話しやすい雰囲気づくりを心がけた。
- ・ PR方法 市議会ウェブサイト、市公式LINE、市子育てアプリ、議員によるチラシ配布、子育て機関での周知。
- ・ 当日は、20代～60代までの市民21人と議員15人が参加。子どもも5人いたため、会場内に子どもコーナーを設置。
- ・ 対話の前に、市の子育て支援の現状等を話題提供した。
- ・ 市民3～4人と議員2人の小グループでの対話。
- ・ 実施後の流れ 市民の声を ①各委員会所管で分類整理 ②各委員会で調査 ③委員間討議（政策提言案） ④議員間討議（政策提言）
- ・ 課題 「市民の声の具現化」。定期的な開催を望む声が多かった。成果の見える化として、政策提言に繋げていきたい。
- ・ 参加者の評判は良かったが、議員からは「『対話』であって『ワークショップ』ではないので、議会主体で開催するのが適当かどうか」との声もあった

(4) 議場システム、電子採決について

・ 経緯

→新しい市庁舎建設に伴い、各会派の意見を踏まえて協議。詳細は情報化対策特別委員会に検討を依頼。

・ 目的

→議会運営の効率性・確実性、議会情報の公開の促進、傍聴者にも分かりやすい「開かれた議会」の実現。

・スケジュール

→令和2年7月の行政視察（岩手県一関市議会）を皮切りに、「情報化対策特別委員会」や「市役所庁舎建設調査特別委員会」での協議・検討を経て、令和3年6月定例会で債務負担行為を設定し、入札、契約。令和4年12月の新庁舎引き渡しの後、令和5年1月にシステム機器設置（動作確認）。令和5年5月、新庁舎供用開始とともに、議場システムの運用開始。

・システム、導入経費

→入札に4者が参加し、(株)JVCケンウッド・公共産業システムズが落札。フルデジタル会議システムPM-5000シリーズ『j m e e（ジェイミー）』を導入。契約金額は、約5,280万円。

※全員協議会室、各委員会室の会議システム含む

・運用経費 ①議会中継配信業務：約1,300万円（5年間）、②庁内映像配信システム機器賃貸借（職員用）：約400万円（5年間）、③議場システム等保守点検委託料：126万円（年）

・その他整備 登退庁表示システム（来賓の歓迎用表示モニターも兼ねる）、会議映像配信システム（議場外モニター4台など）

・電子採決の導入に伴う関係例規の改正状況等

→「大崎市議会会議規則」の改正

①表決方法に、従来の方法の他に「電子採決システムを用いる投票」を追加

②電子採決時の取扱いとして、「電子採決時、賛成または反対のいずれかのボタンを押さなければならない」「いずれのボタンも押していない者は、問題を否とする者とみなす」といった条項を追加

※「棄権ボタン」は不採用とし、棄権する時は、議場から退場することにした。

・採決について、本会議、常任委員会等で、どういった場合にどの表決方法を用いるか基準やルール等を定めているか

→反対討論があった案件についてのみ電子採決し、反対討論がない案件については、これまでどおり簡易採決（請願は起立採決）。賛否の数字のほか、誰が賛成・反対を投じたか判別できるように、席次（座席表）でも表示する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・電子採決の反響や評価は（議員・当局・市民） <p>→導入当初は、議員が操作ミスをしてしまう事例がしばしばあった。議長や議員が、呼吸を合わせて進行することで、スムーズにミスなく採決できる。</p> <p>（５）オンライン化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン委員会については９月定例会で改正予定。議会に係る手続等のオンライン化については、議運で検討中。 <p>（６）障害者への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議への手話通訳派遣及び音声認識文字表示システムの導入については、費用対効果を含め、議運で検討中。 <p>（７）議会DXに関する特徴的な取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからだが、まずは令和５年度と令和６年度に、議員研修を実施している。
<p style="text-align: center;">所 感</p> <p style="text-align: center;">（意見・感想・今後の課題等）</p>	<p>意見交換会などで出された市民の声に、会場での回答はもちろん、正式な回答まで誠実に対応している姿勢が素晴らしい。</p> <p>大崎市議会の予算特別委員会は、分科会方式ではなく議員全員で開催していた（新年度予算の審議の場合、総務・民生常任委員会関連分は１日半ずつ、産業・建設常任委員会関係分は１日ずつの計５日間（決算は各１日で、計４日間））。市町村合併当初は、分科会方式で行っていたが、「自分が所属していない常任委員会のことも知りたい！」との声にこたえて、３年目から導入されたとのこと。その熱意に感銘を受けた。</p>

報告者 議会運営委員会 田中 宏